

インドの人的資源に秘められた優位性と日本企業との協働の可能性

IIMナグプールは、いかにして高度な人材を育成し、日本企業にとっての価値を生み出しているのか

本資料は、原本スライドの画像をそのまま掲載し、各スライドの内容を日本語で対訳したものです。



Prof. A. K. Singh（アローカ・クマール・シン教授）

IIMナグプール エグゼクティブ教育担当ディーン（学部長）/ 生産・オペレーションズ・マネジメント教授 / CLIPセンター長

IIMナグプール、IIMトリチ、IMIニューデリー、IMTで12年以上にわたり教壇に立ち、その前にはインド鉄鋼公社（SAIL）で約9年間の実務経験を積みました。これまで3,000人以上の企業幹部を指導し、エグゼクティブ教育、コンサルティング、組織運営の分野で成果を上げています。

【学歴】

・FPM（オペレーションズ・マネジメント / 数量手法）— IIMインドール

・機械工学 — G.B.パント大学（パントナガル）

【専門分野】

・オペレーションおよびプロジェクト・マネジメント

・ビジネス・アナリティクス

・ロジスティクス、インフラ、プロジェクト・マネジメント

・エグゼクティブ教育 / 企業研修

産業界での実務経験 ● 学術面のリーダーシップ ● エグゼクティブ育成



本日のアジェンダ

01 インドで急速に広がる高度人材の裾野
02 IIMナグプール：変化に強いプロフェッショナルの育成
03 日本企業との協働機会
04 学術提携からビジネス成果へ



セクション01
インドで急速に広がる
高度人材の裾野

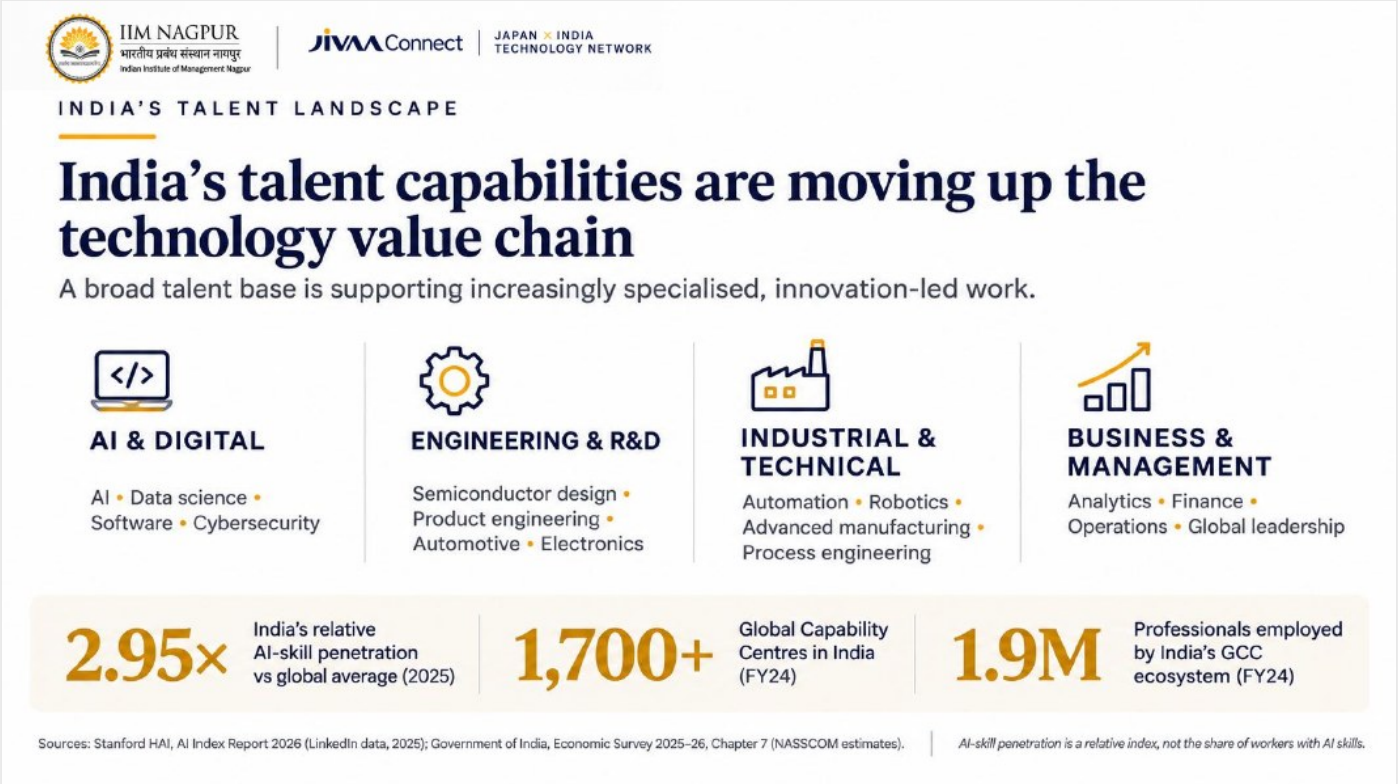


インドの人材基盤

インドは、他に例を見ない規模で人材を輩出し続けています。

【4,500万人】高等教育機関の在籍者数（2023-24年度）
【1,020万人】STEM分野の在籍者数（2023-24年度）
【44%】STEM分野の在籍者に占める女性の割合（2023-24年度）

出所：インド教育省「AISHE 2023-24」公表資料（2026年7月8日）。



インドの人材は、テクノロジー・バリューチェーンの上流へ

幅広い人材基盤を土台に、より専門性の高いイノベーション主導の仕事が広がっています。

【AI・デジタル】AI、データサイエンス、ソフトウェア、サイバーセキュリティ
【エンジニアリング・R&D】半導体設計、製品エンジニアリング、自動車、エレクトロニクス
【産業・技術系】オートメーション、ロボティクス、先端製造、プロセスエンジニアリング
【ビジネス・マネジメント】アナリティクス、財務、オペレーション、グローバル経営
【2.95倍】インドのAIスキル普及度（世界平均＝1、2025年）
【1,700社超】インドに拠点を置くグローバル・ケイパビリティ・センター（GCC）数（FY24）
【190万人】インドのGCCエコシステムの雇用者数（FY24）

出所：スタンフォードHAI「AIインデックス・レポート2026」（LinkedInデータ、2025年）、インド政府「経済調査2025-26」第7章（NASSCOM推計）。AIスキル普及度は相対指標であり、AIスキルを持つ労働者の比率を示すものではありません。

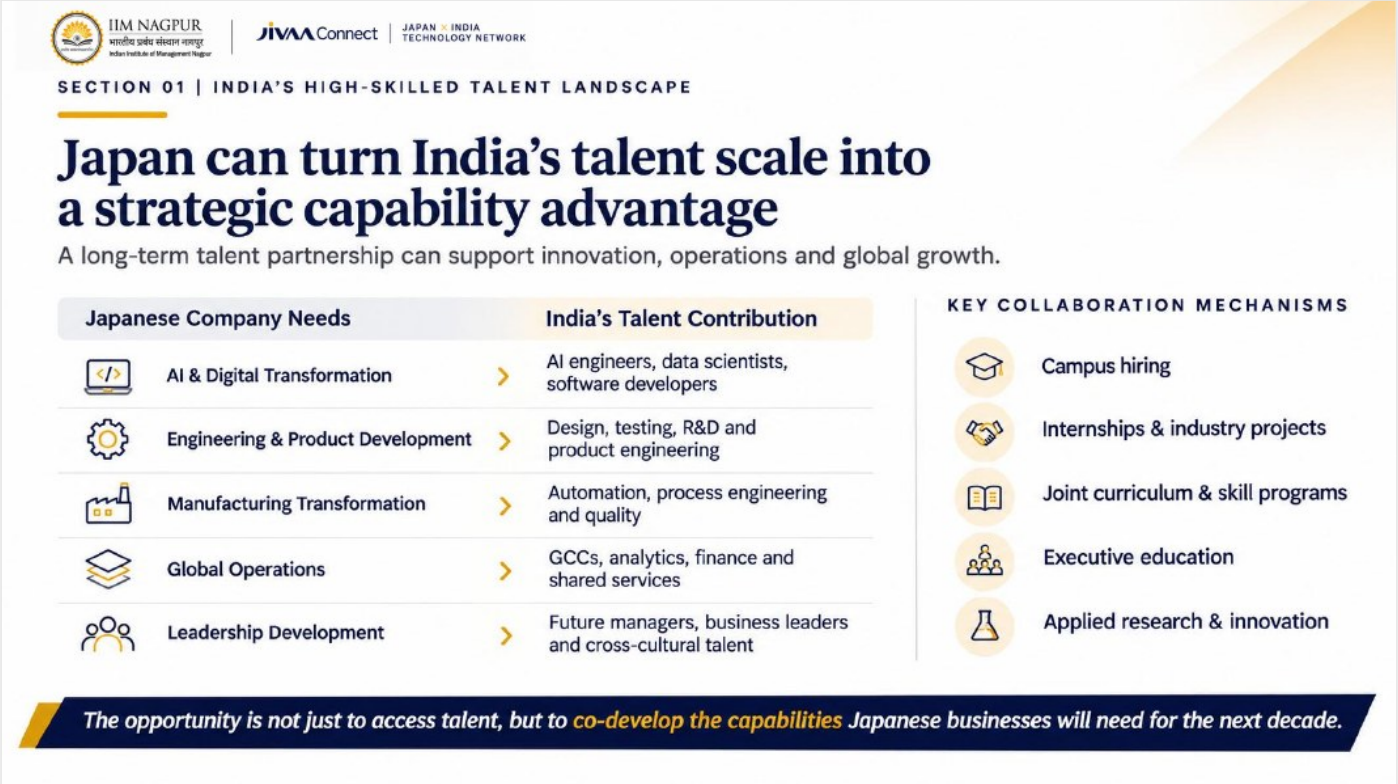


インドの人材機会は大きい一方で、採用の難易度は上がっています

在インド日系企業は、必要な人材の確保が年々難しくなっていると報告しています。

【35.6%】インドに進出する日系企業のうち、過去2年間で人材採用が「悪化した」と答えた割合
【人材採用の状況（調査回答）】悪化 35.6% / 変化なし 47.9% / 改善 5.6% / わからない 11.0%
【人材育成への示唆】即戦力となるスキル / AI・エンジニアリングの専門人材 / 定着とキャリア形成 / 日印間の意思疎通
求められているのは人材パイプラインを広げるだけではありません。ビジネスの成果につながるスキルを育てることが重要です。

出所：JETRO「2025年度 海外日系企業の事業環境に関する調査（グローバル版）」インド n=374、2025年12月26日公表。過去2年間の人材採用状況。



日本はインドの人材規模を「戦略的な競争力」に変えられる

長期的な人材パートナーシップは、イノベーション、オペレーション、グローバル成長を支えます。

【日本企業のニーズ → インド人材の貢献 / 主な協働手法】

・AI・デジタルトランスフォーメーション → AIエンジニア、データサイエンティスト、ソフトウェア開発者 / キャンパス採用

・エンジニアリング・製品開発 → 設計、テスト、R&D、製品エンジニアリング / インターンシップ・産業プロジェクト

・製造の変革 → オートメーション、プロセスエンジニアリング、品質 / 共同カリキュラム・スキルプログラム

・グローバル・オペレーション → GCC、アナリティクス、財務、シェアードサービス / エグゼクティブ教育

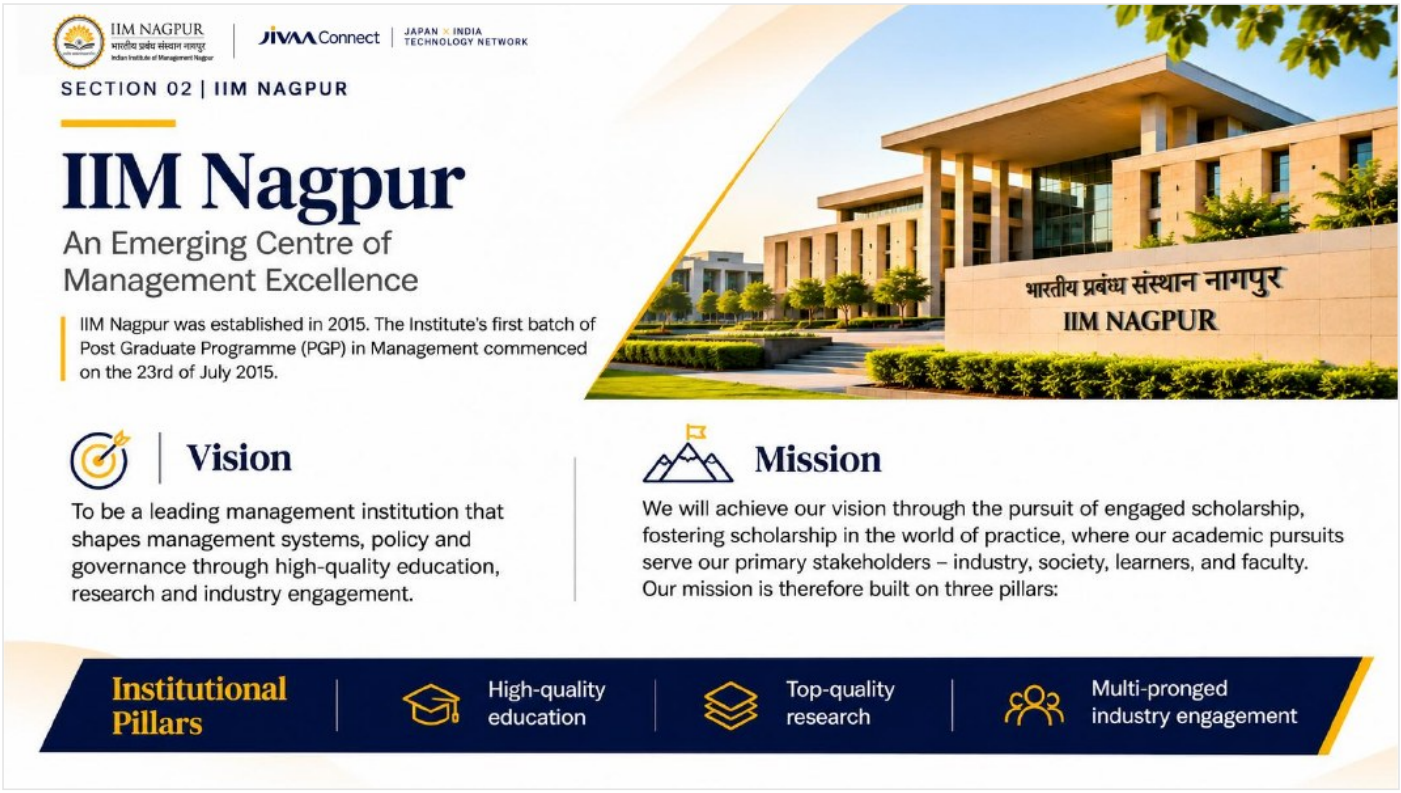
・リーダー育成 → 次世代マネージャー、経営幹部、異文化対応人材 / 応用研究・イノベーション

ここでの機会は単なる人材の確保ではなく、日本企業が今後10年に必要とする能力を共に育てることです。



セクション02
IIMナグプール
変化に強い経営人材の育成

学術的な卓越性、産業界との連携、そして日印協働の可能性。



IIMナグプール：経営教育の新たな拠点へ

IIMナグプールは2015年に設立され、経営学修士課程（PGP）の第1期が同年7月23日に開講しました。

【ビジョン】質の高い教育、研究、産業連携を通じて、経営システム、政策、ガバナンスを形づくるリーディング機関となること。
【ミッション】実践の場に根ざした学術研究を追求し、産業界、社会、学生、教員といった主要なステークホルダーに還元します。
【3つの柱】質の高い教育 / トップレベルの研究 / 多面的な産業連携



立地とキャンパス

経営教育と産業連携に適した、戦略的な立地と最新設備を備えたキャンパス。

・インドの中央部に位置し、学術・企業・政策の結節点となっています
・ナグプール国際空港から9km
・132エーカーの広さを誇るスマートで環境負荷の低いキャンパス
・2MWの太陽光発電設備がネットゼロ目標を後押し
・学び、研究、産業連携を一体で進める現代的なキャンパス



ランキングと国際連携

NIRF 2025で25位、Business World 2024で16位、Outlook ICARE 2026で19位にランクイン。

India Today-MDRA：エグゼクティブ経営講座 トップ10（10位）

Cforeランキング：政府系ビジネススクール部門 10位

国際連携：Ivey Publishing（カナダ）、リール大学（フランス）、サンウェイ大学（マレーシア）、スカイライン大学カレッジ（UAE）

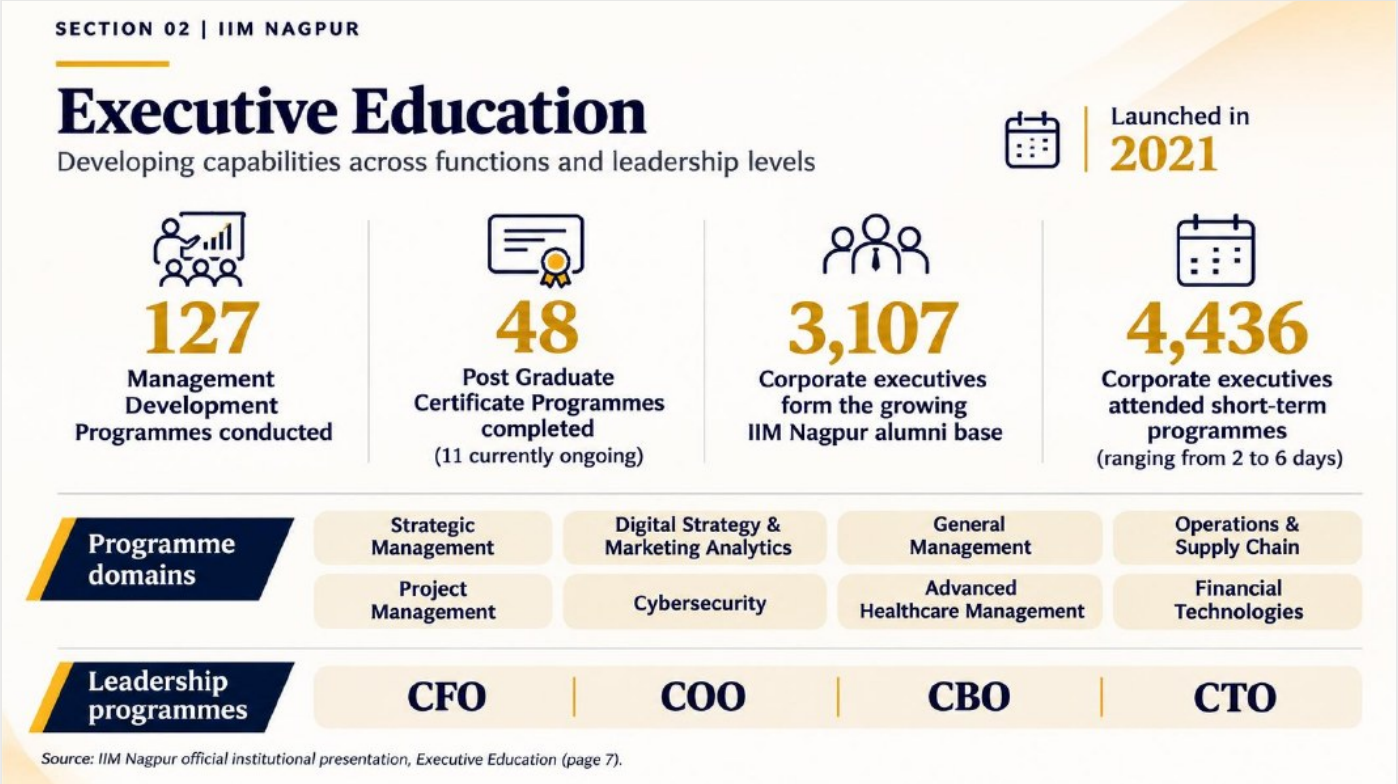
国内での高い評価とグローバルなパートナーシップを併せ持つ、急成長中の経営大学院です。



学位・教育プログラム

次世代リーダー、社会人、研究者のための学びの道筋。

01 経営学修士（MBA）— 2年間・全日制・キャンパス内居住
02 エグゼクティブMBA — ナグプール校とプネー校でのハイブリッド型
03 ブレンデッドMBA — 社会人向けプログラム
04 エナジー・マネジメント・エグゼクティブMBA — NTPC（インド国営火力発電公社）との連携
05 博士課程（Ph.D.）— 学術研究プログラム
06 博士課程（エグゼクティブ）— 社会人向け博士プログラム
全日制の経営教育からエグゼクティブ教育、博士研究まで幅広く対応しています。



エグゼクティブ教育

2021年に開始。各職能・各階層のリーダーを育成しています。

【127本】経営開発プログラムの実施数

【48本】ポストグラデュエート・サーティフィケート・プログラムの実施数

【3,107人】企業幹部（着実に広がるIIMナグプール同窓生ネットワーク）

【4,436人】短期プログラム受講者（現在11本を継続実施、各2　6日間）

【プログラム領域】戦略 / デジタル戦略・マーケティング・アナリティクス / 総合マネジメント / オペレーション・サプライチェーン / プロジェクト・マネジメント / サイバーセキュリティ / 先端テクノロジー / 財務 / ヘルスケア・マネジメント / リーダーシップ / CFO・COO・CBO・CTO向けプログラム

出所：IIMナグプール公式機関資料「エグゼクティブ教育」（7ページ）。



研究、コンサルティング、知的資本

厚みのある教員体制、質の高い研究、そして実効性のある産業連携。

【教員の強み】インド国内外の一流教育機関で博士号を取得した教員が集結。豊富なグローバル経験を持つ元産業界リーダーが、経営理論の実践的な活用を後押しします。元上級行政官が兼任教員として政策・コーポレートガバナンスを担当しています。

【研究・コンサルティング】FT-50、ABDC A*/A、ABS 4/3区分の学術誌に質の高い論文を発表。資金提供プロジェクトとコンサルティング案件の総額は約3億8,000万ルピーに上ります。

【領域】マネジメント / 公共政策 / ガバナンス / 戦略

学術的な厳密さ、産業経験、政策への知見を掛け合わせ、実社会にインパクトを生み出します。



産業界との幅広い連携

企業向けエグゼクティブプログラムを通じて、政府・公共・民間の各セクターとつながっています。

【参加組織 計55団体】政府セクター17 / 公共セクター14 / 民間セクター24

政府：国家災害対応部隊（NDRF）、インド規格局（BIS）、中小企業省

公共：インド石油公社、ヒンドゥスタン石油公社、インド鉄鋼公社

民間：タタ・オートコンプ、L&T、サムスン、ルピン・インディア、エピロック

セクターを越えたエグゼクティブ教育と産業連携のプラットフォームです。

出所：IIMナグプール公式資料「参加組織 - CEP/MDP」。



起業家精神とイノベーションのエコシステム

起業、応用研究、産学連携を後押ししています。

【InFED】IIMナグプール起業開発財団 — セクション8形態のインキュベーション施設。NITI Aayog、DST、MeitY、DPIIT、商工省の支援を受けています。Startup India Seed Fund Schemeで1億ルピーの助成が承認済み。

【AI MARVEL】AI R&Dセンター — マハラシュトラ州政府の支援を受けて設立。AIの先端研究と産業応用に取り組んでいます。

【CLIP】ロジスティクス・インフラ・プロジェクトマネジメント評議会 — セクション8形態の企業。インフラとプロジェクトマネジメントの発展を図り、ロジスティクス・インフラ・オペレーション分野の産学連携を推進しています。

起業、研究、産業連携をつなぐエコシステムを形成しています。



サステナビリティ、社会への貢献、地域連携

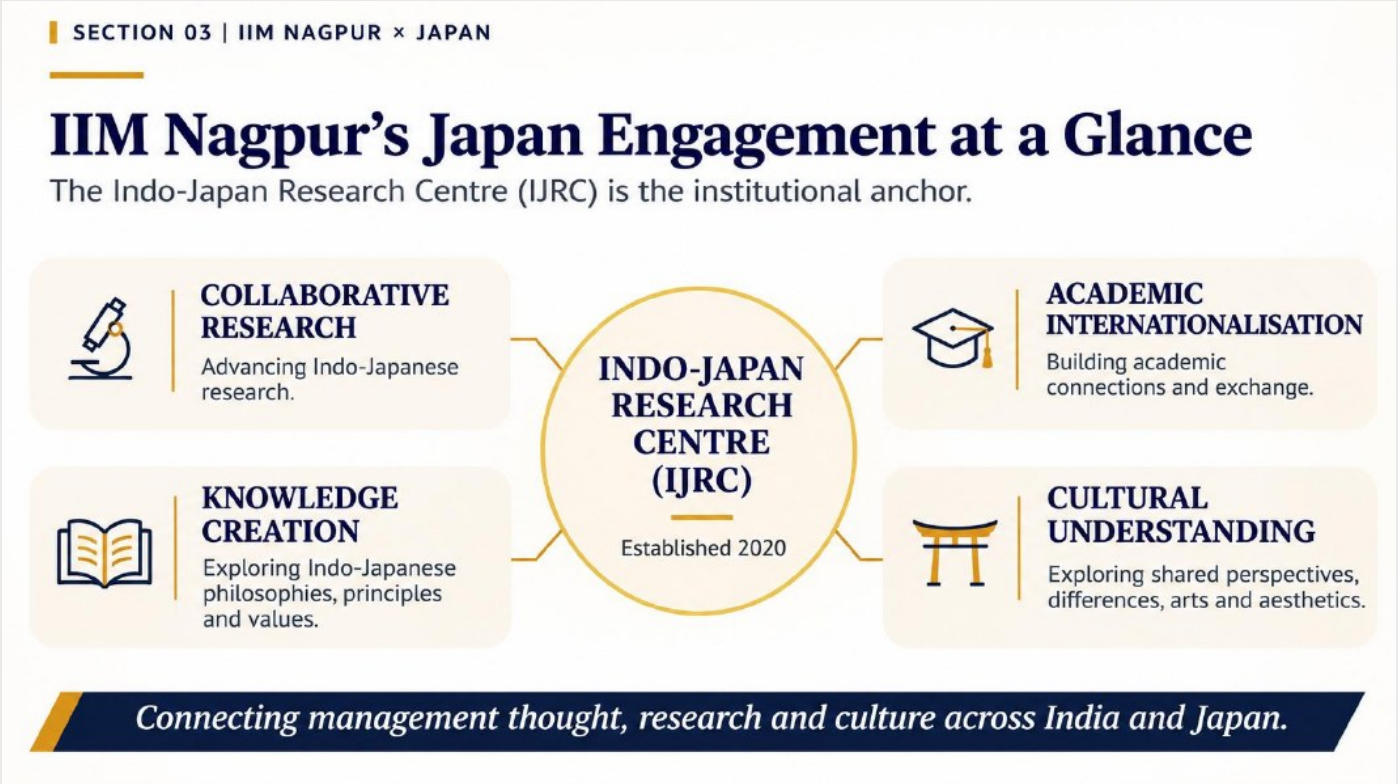
責任と包摂の姿勢を、あらゆる活動に織り込んでいます。

【持続可能なキャンパス】環境配慮とクリーンエネルギーの取り組みを統合。
【環境保全】キャンパスの緑化と生物多様性を推進。
【地域との連携】さまざまな活動を通じて地域社会と関わりを持っています。
人々、社会、環境にとっての長期的な価値を生み出します。



セクション03
日本に特化した取り組みと協働の機会

人材、研究、産業における持続的な日印パートナーシップの構築を目指して。



IIMナグプールの日本関連の取り組み

日印研究センター（IJRC）が中核的な役割を担っています。

【共同研究】日印の研究を推進。
【学術の国際化】学術的なつながりと交流を構築。
【日印研究センター（IJRC）】2020年設立。
【知識創造】日印の哲学や原理、価値観を探究。
【文化理解】共通点や相違点、芸術、美学への理解を深める。
マネジメント思想、研究、文化を日印の間でつなぎます。



日本企業のビジネスと経営に直接触れる

国際イマージョン・プログラム（IIP）– 日本：MBA2年次生を対象とした毎年恒例の日本研修。

・日本を代表する企業とビジネス慣行に触れる
・中央大学との学術交流
・日本の経営、文化、働き方を肌で体感する
【訪問先】トヨタ、日本航空（JAL）、セブン-イレブン、楽天、MUFG、中央大学
将来のインド人マネージャーが、日本企業とその経営実践を直接体験できる機会となっています。



日本企業の採用とインドの経営人材をつなぐ

「Viksit Bharat 2047：グローバルな視点」日印パートナーシップ・セッション。

【JETROの視点】JETROニューデリー首席代表 鈴木隆氏が、日系企業によるインド人材採用の動向と求めるスキルを紹介。

【人材への道筋】JETROは高度外国人材向けの取り組みとして、Japan Career Promotion Forum（JCPF）と専用人材ポータルを紹介。

【企業の参加】スズキR&Dセンター・インディア（SRI）、HORIBA Indiaが、自社の考え方とインド人材への期待を共有。

【IIMナグプールの取り組み】SRIでの学生インターンシップを実施。日系企業によるMBA卒業生の採用実績もあります。

【今後の展開】IIMナグプールでの日本語講座開設を計画中。

2025年7月24日｜IIMナグプール・キャンパス。国際的なパートナーシップを通じてインドの成長を考察する対話の場となりました。



日本知的財産協会（JIPA）との交流

知的財産、イノベーション、グローバル・リーダーシップをめぐる産学対話。

【JIPA代表団の訪問】IIMナグプールは日本知的財産協会（JIPA）のハイレベル代表団を迎え、有意義な意見交換を行いました。

【主な議論テーマ】グローバルリーダーの育成におけるインドの経営教育機関の役割 / 知的財産（IP）制度の活用 / イノベーションと起業の機会 / 経営教育・研究における協働

【キャンパスとイノベーション】代表団はキャンパスを見学し、InFEDチームと交流。イノベーションの取り組みと協働の可能性を探りました。

2025年8月5日 | IIMナグプール・キャンパス。日本の知財、イノベーション、経営の知見をインドと結びつける有意義な産学連携となりました。



キャンパスに日本文化を招く

教室の外でも日本を体験しています。

【日本映画祭】ムンバイ日本国総領事館および国際交流基金（ジャパンファウンデーション）との共催。
【雛祭り】日本の伝統と春の訪れを祝う行事。
【生け花・金継ぎ】日本の芸術、美学、哲学を体験。
【七夕・生きがい】日本の伝統、目的意識、自己成長について探求。
IIMナグプールは文化交流を通じて、学生の日本への理解を深めています。



日本をテーマにした研究と知識創出

日本の政策、イノベーション、経済経験から得られる洞察。

【日印研究センター（IJRC）】IIMナグプールにおいて、日印の機会に関する研究、対話、知識創出を行う専用プラットフォーム。
【日本の戦後税制改革】日本の税制の変遷と、経済復興・長期的成長における役割を分析。
【ISRO－JAXAの協働】宇宙探査、技術開発、今後の可能性における日印協働の研究。
【日本の「失われた数十年」】長期にわたる経済停滞の教訓と、政策・経営戦略への示唆。
日本の経験から文脈に即した洞察を導き、インドの成長、政策、経営判断に活かします。



セクション04
協働の可能性

IIMナグプールとの連携を通じて、日本に重点を置いた人材、研究、イノベーションにアクセスできます。



日印協働の2つの戦略的アプローチ

実際のビジネスニーズに応える人材と知識を育てます。

【人材パイプライン】日本で即戦力となる経営人材およびビジネス・テクノロジー人材を育成。

【研究・コンサルティング】学術的な専門性を、日本産業の実際の課題を解くソリューションへと転換。

対象分野：AI / 半導体 / 先端製造 / デジタルトランスフォーメーション / 共同研究 / 産業プロジェクト / 市場参入・オペレーション / イノベーション・IP・テクノロジー

IIMナグプール、JIVAA Connect、日本企業が連携し、日本産業とインドの学術力を結びつけます。



日本のビジネスとテクノロジーの人材ギャップを埋める

ビジネス上のニーズをテクノロジーによる解決策に落とし込める人材を育てます。

【85.1％】DXを推進する人材が不足していると答えた日本企業の割合。
【43％】ビジネスアーキテクトの不足率。DX人材の中で最も不足している職種とされています。
【ビジネスアーキテクト】ビジネス要件をテクノロジー主導の解決策に変換する役割。
【ビジネス成果】効果的なDX / テクノロジー導入の促進 / 測定可能なビジネス価値の創出。
IIMナグプールとJIVAA Connectが日本企業と連携し、こうした人材の育成を進めています。



キャンパスからキャリアへ：日本対応人材パイプラインの構築

IIMナグプール、JIVAA Connect、日本企業が連携した産業主導の協働モデル。

【優先セクターと想定職種】AI・データ：AIビジネスアナリスト、AIプロダクトマネージャー、データ戦略マネージャー / 半導体・エレクトロニクス：半導体ビジネスアナリスト、プロダクトマネージャー、サプライチェーン専門家 / 先端製造・ロボティクス：デジタル変革マネージャー、産業プロジェクトマネージャー、オートメーション・ビジネスアナリスト / 企業のDX：ビジネスアーキテクト、ERPアナリスト、テクノロジープログラムマネージャー

【協働モデル】産業ニーズの定義 → 学習プログラムの共同設計 → 産業体験・実践 → 実務即応力の評価・養成 → キャリア機会への接続

【各者の役割】IIMナグプール：カリキュラム、人材育成、評価を担う学術パートナー / JIVAA Connect：日本企業との接続・調整・促進 / 日本企業：求めるスキルの定義、プロジェクトやインターンシップの提供、採用機会の創出

学びから就業へとつながる、日本産業のニーズに沿った体系的な道筋です。



日本企業との雇用の道筋をつくる

日本対応人材の育成、評価、採用に向けた多様な連携手法。

・企業メンタリング：日本産業界のリーダーによる指導
・ライブプロジェクト：産業の実例を用いて実際の課題を解決
・日本重視のインターンシップ：実務経験と人材評価
・キャップストーン：重点テーマ（AI、半導体、製造、DX）への応用ソリューション
・正規採用：インド・日本でのキャンパス採用および直接採用
【期待される成果】産業で即戦力となるビジネス・技術人材 / 日本企業での就業機会の拡大 / 日印の産学連携の強化 / 将来の産業ニーズに応える持続可能な人材パイプライン
IIMナグプール、JIVAA Connect、日本企業が共に、日本対応人材のパイプラインを創り上げます。



共同研究とコンサルティング

日本産業とインドの学術的専門性を結び、実際のビジネス課題を解決します。

【日本の研究機関との共同研究】教員・研究者の協働 / 日印比較研究 / 共同出版・ケーススタディ / 学術交流と知識共有

【企業向け研究・コンサルティング】インド市場参入調査 / 事業戦略とローカライズ / サプライチェーンとオペレーショナル・エクセレンス / DXとAIの導入

【産業主導プロジェクト】実際のビジネス課題の解決 / セクター別研究 / 技術・経営研究 / 学生と教員による共同プロジェクト

【協働モデル】IIMナグプール：教員の専門性、研究力、学術面のリーダーシップ / 日本の研究機関・大学：研究協働、知識交換、学術ネットワーク / 日本企業：ビジネス課題、産業データ、プロジェクトの提供 / JIVAA Connect：マッチングと日印協働の調整

学術知と産業課題を結びつけ、実践的なビジネス価値を生み出します。



研究・コンサルティング：重点分野

日印の共同研究、コンサルティング、産業協働における優先テーマ。

【AI・データ活用】日本産業におけるユースケースとビジネス効果 / AIによる生産性・プロセス革新 / データ駆動型の意思決定 / 責任ある拡張性の高いAI導入

【半導体・エレクトロニクス】インドの機会とエコシステム分析 / サプライチェーンの強靭化とローカライズ / 人材・能力の開発

【先端製造】スマートファクトリーとインダストリー4.0 / オペレーショナル・エクセレンス（リーン / カイゼン + デジタル） / 製造サプライチェーンの最適化

【企業変革】業務プロセス・ERPの変革 / 変革の定着とチェンジマネジメント / 循環経済と資源効率

【サステナビリティ・グリーンビジネス】脱炭素とエネルギー転換 / ESGと持続可能なオペレーション

【協働による成果】実践的なビジネス洞察 / 産業即応型の人材とソリューション / パイロット事業とケーススタディ / 長期的な日印パートナーシップ

研究から実社会の成果へ。イノベーションと事業成長を共に前へ進めます。



セクション05
協働機会の想定事例

戦略的な機会から、実現可能なプロジェクトへ。



インドのAI戦略を支える安定した電力供給

AIデータセンターと先端産業向けに、高品質な電力インフラを強化する日印イニシアティブの検討。

【なぜ重要か】AIデータセンターには、途切れることのない安定した電力が必要です。容量に加えて、電力品質、系統接続、コストも重要な要素となります。インフラ計画では、発電、蓄電、需給調整、送電を一体で考える必要があります。

【想定される協働】インドのAI・データセンター電力需要の調査 / インフラの不足と技術選択肢の評価 / 共同フィージビリティ調査とパイロットの検討

【構成要素】送電・系統接続 / バックアップ・自家発電 / 変電所・電力制御 / 再生可能エネルギー（太陽光 / 風力） / 蓄電池

【ステークホルダーの役割】IIMナグプール：調査・フィージビリティ / JIVAA Connect：日印間の調整・促進 / 日本側の官民ステークホルダー：技術面および資金面での協力

あくまで協議用の構想です。実現性、パートナー、資金調達、パイロットの立地は今後検討します。



フィージビリティ調査：範囲と重点項目

需要、インフラギャップ、技術選択肢、実施モデルを評価する日印共同調査。

【需要の把握】AIデータセンターおよび関連産業クラスターの現在・将来の電力需要を推計します。

【インフラ・電力品質の評価】系統の信頼性、停電履歴、電圧・周波数の安定性、系統接続容量を評価します。

【技術選択肢】発電（ガスタービンなど）、蓄電（電池）、系統安定化（同期調相機、インバータ）、送電（HVDC）に適した日本技術を評価します。

【経済・財務評価】プロジェクトコストを見積もり、事業モデル（PPP、JV、BOOTなど）を検討。日本の政府系・金融支援の活用可能性も探ります。

【パイロット立地と実施計画】候補地、段階的な実施ロードマップ、リスク対策、成功指標（信頼性、品質、コスト）を特定します。

【期待される成果】需要とインフラ不足の明確な評価 / 推奨する技術・ソリューションの組み合わせ / 想定事業性と資金調達の選択肢 / 実現可能なパイロット案と拡大へのロードマップ

成果物：高品質な電力インフラにおける日印協働を実現するための、実行可能なフィージビリティ報告書。



ご清聴ありがとうございました

テクノロジー、人材、イノベーションにおける 日印協働の推進